

筑波大学体育会所属学生の運動生活実態調査

蓬田 高正*・稲垣 裕美・道上 静香**・小俣 幸嗣
 福原 祐三・河村レイ子・安藤真太郎・高木 英樹

A Research Report on Daily Life of Students Belong to Sports Club.

YOMOGITA Takamasa*, INAGAKI Yuumi, MICHIKAMI Shizuka**, KOMATA Koji,
 FUKUHARA Yuzo, KAWAMURA Reiko, ANDO Shintaro, TAKAGI Hideki

1. はじめに

本学体育センター課外スポーツ担当では、学生及び教職員のスポーツ活動への参加を促進し、体育系課外活動団体の活動を支援してきた。しかしながら、近年、学生のスポーツ欲求の高まりや活動選考の多様化に伴って、支援体制の再検討を行うことが必要であると思われる。

保健体育審議会¹⁾は、「スポーツ振興基本計画の在り方について—豊かなスポーツ環境を目指して—(答申)」において、生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実の一つとして、施設、人材等の面でスポーツに関する豊富な資源を有している大学等の高等教育機関における学生のスポーツ活動の充実を挙げている。

そこで、課外スポーツ担当では、こうした体育系課外活動の充実を図るためには、まず、体育会所属学生の運動生活実態及び活動に対する満足度を把握する必要があるものと思われる。

そこで本報告では、本学体育会所属学生の普段の生活や運動生活の実態及びそれに対する満足度を運動生活実態として調査し、今後の運動生活及び運動活動環境整備のための基礎資料を得ることを目的に検討した。

2. 調査方法

2.1. 調査方法及び対象

調査は質問紙調査法を用い、平成14年1月から2月にかけて実施した。対象者は筑波大学体育

会に所属する学生909名(男子625名、女子271名、不明13名)である。

2.2. 調査手続き

体育会部会及び同好会の部長を通して調査への協力を依頼し、調査用紙を各部に配布して部ごとに調査を実施した。

2.3. 調査用紙

体育会所属学生の運動生活実態を調査することを考慮して、今回の調査用紙の枠組みを大きく以下のように構成した。

- I あなた自身について
- II クラブ及び大学への要望
- III クラブ活動への支援体制
- IV クラブ活動と授業との関連について
- V クラブへの参加状況、満足度について
- VI 生活全般について

以上のような観点から、38の質問項目を作成した。

3. 結果及び考察

3.1. あなた自身について

性別では68.8%が男性で、女性は29.8%であった。また、学類・学群別ではやはり体育専門学群が4割(41.1%)を占め、自然学類が8.8%で続く。学年別では就職活動や卒業論文などで忙しい4年次において極端に人数が減る結果となった。入学形態は、一般入学が66.0%、推薦入学が29.3%、AC入試が2.2%と続く。競技レベルについては、地域・地区大会レベルがもっとも多く(45.5%)、続

* 独立行政法人国立青年の家 Independent Administrative Institution

** 滋賀大学 Shiga University

いてレクリエーションのレベル・全日本大会レベルがそれぞれ、22.7%・20.5%で、国際大会出場レベルも6.2%おり、様々なレベルの学生が活動していることが分かった。

中学・高校の所属クラブについては、中学・高校と全く違う種目が42.1%、中学・高校どちらかが同一種目が14.4%、中学・高校共に同一種目が43.5%というように、大学に入って全く新しい種目に取り組むか、今までずっとやってきた種目に取り組むかの二つに分かれた。また、所属クラブ以外の運動や競技をしている学生は123名にも上った。

練習時間については、2時間台が30.7%、3時間台が26.5%、4時間台が12.4%であった。開始時刻は4時台が17.2%、5時台が32.9%、6時台が18.7%であり、終了時刻は7時台が20.7%、8時台が20.0%、9時台が36.1%であった。つまり、多くの学生は4時から10時までの間の大体2～3時間を練習に当てていることになる。クラブの練習がないのは週に1～2日というのがほぼ半数を占めた。

就寝時間については、6時間台が28.1%、7時間台が31.8%、8時間台が19.9%であった。就寝時刻は0時台が39.6%、1時台が27.4%、2時台が15.0%であり、起床時刻は6時台が12.5%、7時台が29.8%、8時台が37.4%であった。つまり、多くの学生は0時から9時までの間の大体6～8時間を就寝に当てていることになる。

3.2. クラブ及び大学への要望

次に、クラブ及び大学施設の満足度であるが、25%以上が「満足」と答えた項目は、「クラブの活動内容」「クラブを続けていく上での生活環境」「コーチング(38.3%)」「トレーナー(25.6%)」「体育施設(48.2%)」であった。これらから、活動に直接関わるような事柄に対しては満足度が高かった。また逆に、25%以上が「不満」と答えたのは、「栄養士(31.1%)」・「メンタルコーチ(26.1%)」・「体育施設(27.0%)」・「部室(38.6%)」・「更衣室・シャワー室(49.0%)」・「厚生施設(特に学食)(41.1%)」・「防犯施設(40.8%)」・「クラブ活動への経済的援助(36.1%)」・「三学期制や授業時間(52.0%)」であった。活動それ自体に関することというよりは、体育施設はもとより、その活動をサポートするような周辺施設への不満が目立っていた。

3.3. クラブ活動への支援体制

トレーニングクリニックについては、「利用したことがある」と答えたのが32.3%、「利用したことがない」は47.9%、トレーニングクリニックの存在自体知らなかった学生は18.8%にも上った。対してスポーツカウンセリಂಗームは、「利用したことがある」と答えたのはわずか0.5%、「利用したことがない」は70.4%、存在自体知らなかった学生は27.4%という結果になった。

3.4. クラブ活動と授業との関連について

「学業」が「クラブ活動にプラス」と答えたのは24.1%、「クラブ活動」が「学業にプラス」と答えたのは17.3%であったが、「三学期制」「学期中の集中授業の開設」「休業中の集中授業の開設」が「クラブ活動にプラス」と答えたのは、それぞれ6.5%、2.5%、2.4%にとどまった。「クラブ活動」が「学業にマイナス」と答えたのは26.4%、「三学期制」「学期中の集中授業の開設」「休業中の集中授業の開設」に対して、それぞれ33.3%、30.5%、29.5%と全体の四分の一の学生が「クラブ活動にマイナス」と答えた。

3.5. クラブへの参加状況、満足度について

クラブへの平均参加率については、「9割以上」が69.2%で「7割～9割」の15.7%と併せると、84.9%の学生が平均参加率7割以上という高い参加率を示した。参加しない・参加できない理由としては、「授業(28.3%)」「病気・けが(29.4%)」というやむを得ない理由が多かった。

3.6. 生活全般について

一ヶ月の収入の平均は91,577円で単純に比較はできないが一般学生より10,000円ほど少ない。仕送りの平均は70,433円、奨学金は12,843円で一般学生より多いが、そのうち693名は奨学金をもらっていない。アルバイトによる収入は15,810円と逆に一般学生より少ない。これはクラブ活動に時間がとられることが少なからず影響しているのではないと思われる。その他の収入についてはほとんどの学生がなかった。

一ヶ月の支出は71,618円で、食費36,555円、住居費や就学費などのその他の支出44,941円であった。また、クラブ活動に必要な経費として、年間にかかる費用は、部費が21,629円、大会遠征費が46,275円、強化練習・合宿費が47,679円で、全体で108,841円であった。支出は一般学生より少ないが、これはクラブ活動に必要な経費がかさ

むため、支出を削っていることが考えられよう。

過去三ヶ月のアルバイトの有無は、62.7%が「アルバイトをした」と答えた。これは一般学生の57.4%より若干多い。アルバイトの週頻度については、週一日が全体の16.5%、週二日が22.2%、週三日が12.0%であった。一日のアルバイト時間は、「2時間以上4時間未満」が19.8%、「4時間以上6時間未満」が20.1%で、8時間以上という回答も6.3%に上った。アルバイトの時間帯は、「夜間」が24.6%と最も多かった。アルバイトをしたと答えた学生のうち41.6%は「学費や生活費」のためで、続いて「趣味・交友費」が25.4%、「クラブ活動費」が12.3%で続く。

食事の時間帯について、朝食に関しては、8時台が40.0%、7時台が14.9%と多く、また、三食の中で「食べない」とする率が最も多かった(22.9%)。昼食は11時台が13.3%、12時台が54.2%と多かった。夕食では、7時台19.6%、8時台23.0%、9時台26.2%、10時台13.9%、12時台8.7%と時間帯が幅広いという結果がでた。次に食事の摂り方であるが、朝食の特徴としては、自炊が全体のほぼ半数で54.0%、コンビニなどのお弁当やパン類が17.3%、食べないが19.0%と続く。昼食は53.4%の学生が学内食堂、18.5%が自炊、14.9%がお弁当やパン類であった。夕食に関しては、自炊(50.6%)と学外の飲食店(33.2%)で八割以上を占めた。一般的な傾向を見れば、一般学生の傾向とはそれほど差異は見られなかったが、クラブ活動をする上で朝食を摂らない学生が二割ほどいるのは問題があると思われる。食事の満足度は、夕食に対する満足度が朝食や昼食に比べ高く(51.7%)、昼食に対する不満が高かった(17.3%)。間食は、間食をしない(39.5%)と1回(43.9%)がほとんどであった。

現在の住居は、大部分が下宿・アパート(63.9%)と学生宿舎(29.7%)であり、一般学生と比べると下宿・アパート(53.6%)が高く、学生宿舎(39.5%)が低い。

4. まとめ

本報告では、本学体育会所属学生の普段の生活や運動生活の実態及びそれに対する満足度を運動生活実態として調査し、今後の運動生活及び運動活動環境整備のための基礎資料を得ることを目的

に検討した。

その結果、1) 体育施設など、活動に直接関わるような事柄に対しては満足度が高く、防犯施設、更衣室・シャワー室など周辺施設への不満が高かったこと、2) 「三学期制」「学期中の集中授業の開設」「休業中の集中授業の開設」に対して、全体の四分の一の学生が「クラブ活動にマイナス」と答えたこと、3) 体育会所属学生の一ヶ月の平均収入は91,577円、平均支出は71,618円で、その他にクラブ活動の経費が年間で108,841円であったこと、4) 朝食は54.0%の学生が「自炊」、昼食は53.4%が「学内食堂」、夕食は50.6%が「自炊」、33.2%が「学外の飲食店」であり、また、朝食を摂らない学生も22.9%いたことなどが明らかになった。

以上の結果から、筑波大学体育会所属学生の運動生活実態が明らかになったわけであるが、以下に今後の課題を述べる。

まずは運動生活に対してある程度意識の高いと思われる体育専門学群生と他学群生との比較を行うべきであろう。そうすることにより、他学群生のスポーツ参加への促進を支援する資料となりうるだろう。

また、この研究報告をどのようにして実際の支援へ活かすかが課題であろう。今回の調査だけでは見えない部分も多いと思われるので、体育会所属学生へのインタビューをするなど具体的にどのような支援を望んでいるかも調査すべきであろう。

引用文献

- 1) 保健体育審議会：スポーツ振興基本計画の在り方について－豊かなスポーツ環境を目指して－（答申）、文部省、2000。
- 2) 筑波大学：学生生活実態調査報告書(第4回)、筑波大学、1994。
- 3) 筑波大学：大学院学生生活実態調査報告書－第5回学生生活実態調査－、筑波大学、1996。
- 4) 筑波大学：学生生活実態調査報告書(第6回)、筑波大学、1999。

本報告は、筑波大学体育科学系内プロジェクト研究(平成13年度)の補助を受けて行われたものである。